

久喜市あゆみの郷 事業報告

平成 30 年度事業計画に基づき、以下の事業を行いました。

1 利用状況と職員体制（平成 31 年 3 月 31 日）

(1) 利用定員の充足

ア 生活介護 定員 15 名 現員 17 名 (男性 11 名 女性 6 名)
 イ 就労継続支援 B 型 定員 15 名 現員 17 名 (男性 10 名 女性 7 名)

(2) 利用者の状況

ア 療育手帳の所持状況

	㊤	A	B	C	なし	計
生活介護	9	3	4	0	1	17人
継続B型	1	5	7	2	2	17人
計	10	8	11	2	3	34人

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
生活介護	0	0	5	3	7	2	0	17人
継続B型	0	1	7	2	2	0	5	17人
計	0	1	12	5	9	2	5	34人

ウ 年齢分布

		10代	20代	30代	40代	50代	60代～	平均
生活介護	男性	0	7	2	2	0	0	29.7歳
	女性	0	3	0	1	0	2	43.0歳
就労継続	男性	0	6	3	1	1	0	33.3歳
	女性	0	2	0	1	3	0	41.6歳
計		0	18	5	5	4	2	35.3歳

エ 利用率の状況

(7) 生活介護

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	22	21	21	23	19	23	22	19	20	20	20	250日
延利用者数	329	339	328	326	329	289	347	328	283	299	292	300	3789人
利用率	104	102	104	103	95	101	100	99	99	100	97	100	100.6%

(イ) 就労継続 B 型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	22	21	21	23	19	23	22	19	20	20	20	250日
延利用者数	296	320	305	302	309	282	335	324	275	282	291	281	3602人
利用率	94	97	96	95	89	98	97	98	96	94	97	93	96%

生活介護の利用率は好調で 100% となりました。就労継続支援 B 型事業は、一部の利用者が精神的に不安定で利用できないことが多くありましたので、利用率

は 96%にとどまりました。去年度よりも多くの出席となるように、家庭や関係機関と連携をしていきます。

オ 職員体制

職 種	配置人数	備 考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主任職業指導員	1	就労継続支援B型（運転業務兼務）
主任生活支援員	1	生活介護（運転業務兼務）
生活支援員	8	生活介護：7名（2名 運転業務兼務） 就労継続支援B型：1名
目標工賃達成指導員	1	就労継続支援B型
看護 師	1	生活介護
事 務 員	1	

（２）生活介護・就労継続支援B型 共通事項

ア 日常生活に関する支援

(ア)利用者それぞれのニーズや状況によって、きめ細かな支援に取り組みました。問題が発生した際もすぐに対応策を検討して、必要に応じて家族に連絡を取りました。その結果利用者アンケートを実施しても支援に満足しているという意見が多く聞くことが出来ました。

(イ)4つの部活動が活動しています。どれも充実して活動しています。「ちくちくクラブ」は、手芸などの創作活動を行っています。普段コミュニケーションが苦手な利用者も参加を表明し、表情豊かに活動しています。「鉄道研究部」では、活動が通所のモチベーションになっている人もいます。次回が楽しみとの感想があります。

(ウ)自治会が充実しました。自分達で「考え」「話し合い」「決めて」「実行」する取り組みを行いました。各イベントの企画を職員と一緒に考えて実行してきました。

イ 健康管理に関する支援

(ア)健康診断（1回）と保菌検査（2回）を行いました。いずれも特変はありませんでした。今年度も健康診断は嘱託医の所属する医療機関で実施しました。健康診断と嘱託医巡回の連動で早めの治療にも繋がることになりました。

(イ)家族の承諾を得たうえで職員の同行を必要とする利用者には通院同行を行いました。日中の様子を正確に情報交換することによって受診の効果が多く出ています。

ウ 権利擁護に関する支援

(ア)虐待防止の徹底をしました。利用者の対応方法をすべての職員が共有できる環境づくりを行いました。個別の対応が必要な場合は、次の日には持ち越さないでその日のうちに方針を出していくことを行いました。

(イ)法人で行う虐待防止研修ほか、事業所内で権利擁護や虐待防止に関わる研修をおこないました。

(3) 生活介護事業

ア 日常生活支援

(ア)上手に食事ができず食べこぼしが目立つ利用者には、個人に合った食器で提供しました。嚥下に課題のある利用者には、食材をすりつぶすなどの対応をしています。

(イ)加齢等による身体機能の低下の対策、成人病予防の対策として作業の合間に身体を動かす機会を取り入れ防止に努めました。

イ 作業活動支援

(ア)集団での活動を中心としたグループと療育的でより個別性の支援が必要なグループに分かれて活動を提供しましたが、メンバーは固定することなく、その時の個人の状態に応じて柔軟に対応しました。

(イ)農耕作業による収穫した野菜を施設前に設置した無人販売所で販売しました。また、就労継続支援B型事業と協働で、利用者が描いた絵を表紙にした手帳、ノートを作成しました。7月からは、週1回木曜日に鷺宮総合支所内で野菜の販売も行いました。

(ウ)工賃全体の支給状況については下表の通りです。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
支給額	46,935円	102,720円	48,511円	112,734円	67,858円	77,078円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
59,799円	107,590円	46,110円	54,747円	71,000円	45,298円	840,380円

ウ 社会活動支援

軽運動(レクリエーション)や買い物外出等を定期的に実施しました。また、誕生月による外食は各月の誕生者で食べたいお店を選んで行きました。少人数で行くことが出来るので、ゆっくりランチが楽しめるとのことで好評でした。

(4) 就労継続支援B型事業

ア 社会生活支援

(ア)課題が多かったり、複数の機関が関わったりする人に対して、ストレングス視点による個別支援会議を行い、本人の可能性の共有や統一した支援が行えるように努めました。

(イ)発障協が主催する利用者部会に積極的に参加しました。部会では、他事業所(入所施設)を見学して入所施設での生活について話を聞きました。また、今年も「権利擁護について」(虐待防止)などを参加者で話し合い、自立に対する意識を学びました。

イ 企業実習

就職希望の利用者に対して、ハローワークに行き求人票の閲覧、就労相談を行いました。現段階ではすぐの就労は難しいが、まわりの利用者もいつかは就労してみたいとの気持ちの変化が現れています。

ウ 作業活動支援

(ア)平均工賃が上がりました。13,931円で昨年度と比べると2,282円の増でし

た。新たな内職を受注した結果と考えます。しかし、部材が日程通り入って来ず納期が短くなってしまったこと。作業手順の組み立てが良くなかったことが影響して職員が残業等を行わなくてはならなくなったことは、次年度の課題となりました。2019年度は、平均工賃 14,500 円を目指しています。

(イ) 毎月の工賃収入額は下表のとおりです。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
支給額	178,136円	234,786円	213,081円	198,018円	222,779円	167,859円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
228,830円	229,119円	213,373円	498,493円	146,845円	189,081円	2,730,396円

(5) 地域交流

ア 地域行事に参加し地域の方との交流の場としました。

行事名	開催日
鷺宮コミュニティまつり	平成30年 5月13日
男と女(ひととひと)のつどい	平成30年 6月23日
ホットハートフェスティバル	平成30年 6月15～17日
久喜特別支援学校PTAまつり	平成30年 7月21日
鷺宮コスモスフェスタ	平成30年10月28日
鷺宮人権のつどい	平成30年12月9日
ホットハートフェスティバル	平成30年 1月18～20日

イ 第6回あゆみの郷まつりを開催しました。公民館に所属するサークル(合唱、吹奏楽)や地域のダンスサークル、久喜北陽高校チア部による「クッキーダンス」などのアトラクションを行いました。来場者は約410名(平成29年度300名)を超えました。事前に周辺の自治会に周知を行えたことで施設の周囲のお住いの方の来場者が多く見受けられました。

ウ 「あゆみだより」を年2回発行しました。公共施設を中心に設置してもらい施設のPRに努めました。

エ 実習生、ボランティアの受け入れについては次のとおりです。

(ア) 施設現場実習の受け入れ

期 間	所 属	人数	延べ日数
平成30年8月20日 ～平成30年10月15日の間	東洋大学 (社会福祉士実習)	2	50日間
平成30年8月21日 平成30年8月23日	久喜特別支援学校 (初任者研修)	2	2日間
平成30年2月5日 ～平成30年2月20日	国際学院埼玉短期大学	2	10日間
平成31年2月4日	幸手市さくらの里 (実地研修)	1	1日間

(イ) 進路体験実習の受け入れ

期 間	所 属	人数	延べ日数
平成 30 年 6 月 6 日～8 日	宮代特別支援学校	1	3 日間
平成 30 年 7 月 9 日 ～平成 30 年 8 月 31 日の間	久喜特別支援学校	4	20 日間
平成 30 年 10 月 22 日～26 日	春日部特別支援学校	1	5 日間

オ ボランティアの受け入れ

延べ人数、714名（前年672名）の受入を行いました。地元の方が中心で毎日の活動（作業等）支援、植栽や畑の管理等を応援していただきました。職員の業務軽減にもつながることや、利用者は、ボランティアさんとの関りを楽しんでいます。

（6）自主事業

ア 送迎サービスを行っています。家族の都合等で休みがちだった人も安定して通えるようになりました。家族の高齢化などで家族での送迎が困難になっています。今年度は、17名が送迎サービスを利用しています。

イ 日中一時の受け入れを行いました。主に2名を受入、精神障害で引きこもりがちな人と行動障害が激しく他の施設で対応できなく在宅生活になっていた知的障害者の受け入れを行いました。体型も大きくパニックになると嘔みつく、蹴る、叩くなどの他害行為になる事はあったが、行動を分析して対応することを繰り返し行っていく事で、パニックの回数は減少しています。利用にあたっては、相談支援センター、行政と個別会議を繰り返し行いました。

（7）危機管理

ア 避難訓練を3回実施しました。想定は火災だけではなく、地震や竜巻などの災害も想定して実施しています。

イ 交通安全研修（利用者向け）久喜警察署協力のもと、交通安全研修を行いました。研修は、講話と交通安全のDVD鑑賞、腹話術による寸劇、通所や日常に自転車を利用する人を対象に自転車に乗る人を対象に実技指導も行いました

（8）人材の育成

内部研修を重点に支援の質の向上を目指して努力しました。日々の支援の在り方の見直しや意識の向上、専門性を高めるための支援スキルの獲得に努力しました。外部研修については下記の通りです。

研 修 名	主 催 者	日 付	参加者
労務管理者研修	埼玉県社会福祉協議会	平成 30 年 5 月 30 日 平成 30 年 6 月 7 日	桜井
摂食嚥下リハビリテーション初級者研修	埼玉県社会福祉協議会協議会	平成 30 年 7 月 13 日	齋藤

中堅職員研修	埼玉県発達障害福祉協会	平成30年7月23日	山崎
利用者のニーズにせまろう	埼玉葛北地域サビ管ネットワーク	平成30年7月27日	桜井
サービス管理責任者研修(介護)	埼玉県障害者支援課	平成30年11月19,20日	江森
生活介護事業に求められているものとは	埼玉県発達障害福祉協会	平成30年11月7日	藤井
障害特性を理解した支援	埼玉県発達障害福祉協会	平成31年2月7日	秋山 山崎
アンガーマネジメントについて	埼玉葛北地域サビ管ネットワーク	平成31年2月15日	秋山 押田
改正労働時間法制等セミナー	埼玉県総合労働福祉協会	平成31年3月28日	桜井